

2009年(平成21年)1月23日(金曜日)

## 木曾ヒノキ製うちわ宇宙へ

### 若田さんの公式飛行記念



若田光一さん

2月から国際宇宙ステーションに長期滞在する宇宙飛行士・若田光一さん(45)が長野県木曾地方の木曾ヒノキ製うちわを持っていくことになった。飛行士が10点持っていくことが認められる公式飛行記念品(OFK)の一つに、森林保護のシンボルとして選んだという。

うちわは、長野県南木曾



若田さんのサインが入った木曾ヒノキ製うちわを手にする柴原さん

町の製材業柴原さん(49)が製作しているもので、長さ約35センチの軍配形。木曾ヒ

ノキに身近に触れることで、需要が減り続ける国産材への親しみを増やしてもらおうと3年前に、武田信玄の軍配からヒントを得て「ヒノキの軍配うちわ」として商品化した。

柴原さんは、製材業の傍ら、静岡県内の荒れた山林約120㌫を私費で買って手入れをするなど、森林の整備に力を注いできた。そんな取り組みを、知人で日本宇宙フォーラム参与の寺門邦次さん(66)が若田さんに紹介。若田さん自身、かつて鹿児島県内に先祖代々の山林を所有していたこともあって、柴原さんの思いに共感し、「何か役立てることがあれば」と、うちわをOFKに選んだ。

ガスなどの発生を防ぐため、真空パックして持って行き、地球帰還後は、米航空宇宙局(NASA)の飛行証明書とともに、長野県に贈られる予定だ。若田さんは寺門さんに、「伊勢神宮にも使われる木曾ヒノキを宇宙に持って行くことは、地球環境問題を考える上で意義があると思う」と話したという。

柴原さんは、「地面に根っこを張る木が宇宙に行くなんて不思議な気持ち。これをきっかけに、林業に注目してもらえれば」と話している。